

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	経専音楽放送芸術専門学校
設置者名	学校法人経専学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の授業時数又は単位数	省令で定める授業時数又は基準単位数	配置困難
文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ヴォーカル専攻	夜・通信	216	160	
	音楽・放送芸術科 ギター専攻	夜・通信	216	160	
	音楽・放送芸術科 ベース専攻	夜・通信	216	160	
	音楽・放送芸術科 ドラム専攻	夜・通信	216	160	
	音楽・放送芸術科 スタジオサウンド専攻	夜・通信	174	160	
	音楽・放送芸術科 サウンド・ステージ専攻	夜・通信	186	160	
	音楽・放送芸術科 コンサート・イベント専攻	夜・通信	175	160	
	音楽・放送芸術科 ライティング専攻	夜・通信	165	160	
	音楽・放送芸術科 ビジュアルクリエイト専攻	夜・通信	186	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページ https://www.keisen-housou.com

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	経専音楽放送芸術専門学校
設置者名	学校法人経専学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本校ホームページ https://www.keisen-housou.com

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前札幌銀行副頭取	2019. 4. 27～2023. 4. 26	財務関係の分析及び助言
非常勤	税理士	2020. 2. 1～2024. 1. 31	財務関係の分析及び助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	経専音楽放送芸術専門学校
設置者名	学校法人経専学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施に係る諸規定や実施内容の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	本校ホームページ https://www.keisen-housou.com
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(各授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) S、A、B、C、Dの評価を5段階の数値で点数化し(S=4点、A=3点、B=2点、C=1点、D=0点)、点数の合計を受講科目数で割り、1科目当たりの平均値を算出する。受講科目数や実践授業の割合等が異なる環境で、習熟度合を測定する指標とする。この結果は分布図としてホームページにて公表する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校ホームページ https:// www.keisen-housou.com
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定方針(ディプロマ・ポリシー)は次のように定めている。 本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力(専門職としての基礎力)」「社会人基礎力(社会人としての基礎力)」「高い職業意識と意欲(プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力)」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材=就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。 これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページ https://www.keisen-housou.com

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の開示（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	経専音楽放送芸術専門学校
設置者名	学校法人経専学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.keisen-g.com
収支計算書又は損益計算書	https://www.keisen-g.com
財産目録	https://www.keisen-g.com
事業報告書	https://www.keisen-g.com
監事による監査報告（書）	https://www.keisen-g.com

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ヴォーカル専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼夜	1734 単位時間/単位	811 単位時間/ 単位	36 単位時間/ 単位	887 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位
	昼間		1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (9人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(11人)	53人 (12人)	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。</p>							

成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。
卒業・進級の認定基準
卒業の認定方針(ディプロマ・ポリシー)は次のように定めている。 本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力(専門職としての基礎力)」「社会人基礎力(社会人としての基礎力)」「高い職業意識と意欲(プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力)」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材=就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。 これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。
学修支援等
年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(14人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(0人) (0%)	37人(14人) (100%)
(主な就職、業界等) プロミュージシャンになる事を目的とした専攻であり就職を対象としておりません。			
(就職指導内容)なし			
(主な学修成果(資格・検定等))なし			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(19人)	9人(1人)	3.7%(5.3%)
(中途退学の主な理由) 精神的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ギター専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	811 単位時間 /単位	36 単位時間 /単位	887 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (10人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(11人)	53人 (12人)	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。</p> <p>本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。</p> <p>これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>							
学修支援等							
年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。							

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(4人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(0人) (0%)	37人(4人) (100%)
(主な就職、業界等) プロミュージシャンになる事を目的とした専攻であり就職を対象としておりません。			
(就職指導内容) なし			
(主な学修成果(資格・検定等)) なし			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(9人)	9人(1人)	3.7%(11.1%)
(中途退学の主な理由) 精神的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ベース専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	811 単位時間/単位	36 単位時間/単位	887 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
	夜間		1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (3人)	1人(1人)	8人(1人)	45人(11人)	53人 (12人)	
カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)							
授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。 シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。							

<p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。 本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。 これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
108人(3人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(0人) (0%)	37人(3人) (100%)
<p>（主な就職、業界等） プロミュージシャンになる事を目的とした専攻であり就職を対象としておりません。</p>			
<p>（就職指導内容）なし</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））なし</p>			
<p>（備考）</p>			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(4人)	9人(0人)	3.7%(0%)
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ドラマ専攻	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	811 単位時間/単位	36 単位時間/単位	887 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
		1734 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
420人	234人 (8人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(11人)	53人 (12人)		
カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)							
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>卒業の認定方針(ディプロマ・ポリシー)は次のように定めている。</p> <p>本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力(専門職としての基礎力)」「社会人基礎力(社会人としての基礎力)」「高い職業意識と意欲(プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力)」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材=就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。</p> <p>これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試</p>							

<p>験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(3人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(0人) (0%)	37人(3人) (100%)
<p>(主な就職、業界等) プロミュージシャンになる事を目的とした専攻であり就職を対象としておりません。</p>			
<p>(就職指導内容) なし</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) なし</p>			
<p>(備考)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(6人)	9人(0人)	3.7%(0%)
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 スタジオサウンド専攻	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	773 単位時間/単位	43 単位時間/単位	918 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420 人		234 人 (34 人)	1 人(0 人)	8 人(1 人)	45 人(20 人)	53 人 (21 人)	
カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)							
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>卒業の認定方針(ディプロマ・ポリシー)は次のように定めている。</p> <p>本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力(専門職としての基礎力)」「社会人基礎力(社会人としての基礎力)」「高い職業意識と意欲(プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力)」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材=就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。</p> <p>これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>							
学修支援等							
年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。							

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

108人(17人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(15人) (88.2%)	37人(2人) (11.8%)
(主な就職、業界等) 音楽・放送業界			
(就職指導内容) 1年生4月から就職関連授業(業界研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策等)を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) サウンドレコーディング技術認定試験(Aランク0名、Bランク4名、Cランク3名、Dランク4名), Pro Tools技術認定試験(Aランク2名、Bランク2名、Cランク5名、Dランク4名)			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(40人)	9人(2人)	3.7%(5%)
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 サウンド・ステージ専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	1040 単位時間/単位	43 単位時間/単位	651 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (50人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(18人)	53人 (19人)	
カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)							
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年</p>							

度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。
成績評価の基準・方法
授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。
卒業・進級の認定基準
卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。 本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。 これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。
学修支援等
年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(17人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(13人) (76.5%)	37人(4人) (23.5%)
(主な就職、業界等) 音楽・放送業界			
(就職指導内容) 1年生4月から就職関連授業（業界研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策等）を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 舞台機構調整技能士3級(15名)			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(47人)	9人(2人)	3.7%(4.3%)

(中途退学の主な理由) 精神的理由
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 コンサート・イベント専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	817 単位時間 /単位	372 単位時間 /単位	545 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (61人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(27人)	53人 (28人)	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。

シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。

また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。

成績評価の基準・方法

授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。

卒業・進級の認定基準

卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。

本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。

これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針は

ホームページで公表している。
学修支援等
年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(16人) (100%)	1人(1人) (6.3%)	70人(13人) (81.3%)	37人(3人) (18.8%)
(主な就職、業界等) 音楽・放送業界			
(就職指導内容) 1年生4月から就職関連授業(業界研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策等)を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) サービス接遇実務検定2級(15名)、サービス接遇実務検定3級(28名)			
(備考)			

中途退学の現状				
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数		中退率	
242人(50人)	9人(3人)		3.7%(6%)	
(中途退学の主な理由) 進路変更				
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。				
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専	音楽・放送芸術科	○	

		門課程	ライティング専攻						
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	1734 単位時間/単位	810 単位時間 /単位	43 単位時 間/単位	881 単位時間 /単位	0 単位時 間/単位	0 単位時間 /単位		
			1734 単位時間/単位						
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
420人	234人 (21人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(21 人)	53人 (22人)				
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）									
<p>授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。</p> <p>シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。</p> <p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>									
成績評価の基準・方法									
<p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>									
卒業・進級の認定基準									
<p>卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。</p> <p>本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。</p> <p>これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>									
学修支援等									
<p>年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。</p>									
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）									

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(11人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(10人) (90.9%)	37人(1人) (9.1%)
(主な就職、業界等) 音楽・放送業界			
(就職指導内容) 1年生4月から就職関連授業(業界研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策等)を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 第二種電気工事士(2名)			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242人(23人)	9人(0人)	3.7%(0%)
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽・放送芸術科 ビジュアルクリエイト専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734 単位時間/単位	666 単位時間/単位	109 単位時間/単位	959 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1734 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
420人		234人 (38人)	1人(0人)	8人(1人)	45人(26人)	53人 (27人)	
カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)							
授業計画については、業界関係者からなる教育課程編成委員会において、前年度授業計画及び授業実績を基に次年度授業計画編成にあたっての意見交換及び編成方針を策定し、その編成方針に沿って学内の教務会議で具体的な授業計画を策定している。 シラバスについては、授業計画編成方針及び具体的な授業計画を教科目担当者に説明を行った上で、教科目担当者に授業計画案を策定してもらい、内容確認の上シラバスとして作成している。							

<p>また、作成したシラバスは年度初めのオリエンテーションにおいて学生に配布し、教育課程編成趣旨の説明も合わせ概要の説明を行っている。各教科目のシラバスについては、年度最初の授業冒頭において、担当教員から授業の流れ、到達目標、使用教材及び評価方法など具体的な説明を行っている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>授業科目の成績評価は、各学期に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。試験は100点を満点とし50点以上をもって合格点とする。成績評価は点数に応じて5段階としS(100-90)、A(89-80)、B(79-60)、C(59-50)、D(49以下)とする。これらの内容は授業科目シラバスに明記されており、新年度オリエンテーションにて学生に配布・説明している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）は次のように定めている。 本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得し、「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。 これを基に教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。ただし、各学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。これらは年度末行われる卒業認定会議にて各学生の成績、出席率を精査し最終決定をする。尚、卒業認定に関する上記方針はホームページで公表している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>年2回以上のクラス担任による面談指導を実施し、適時、部長又は教務課長との面談指導も実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人(23人) (100%)	1人(0人) (0%)	70人(19人) (82.6%)	37人(4人) (17.4%)
(主な就職、業界等) 音楽・放送業界			
(就職指導内容) 1年生4月から就職関連授業（業界研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策等）を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 陸上特殊無線技士(14名)			
(備考)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

242人(44人)	9人(0人)	3.7%(0%)
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度当初に目標を設定し、毎週の職員会議にて出席状況の確認、情報共有、対策検討を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
音楽・放送芸術科	100,000円	700,000円	400,000円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.keisen-housou.com		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社札幌映像プロダクション 代表取締役社長	2019. 10. 1～2021. 9. 30 (2年)	企業団体
北海道高等学校文化連盟	2019. 10. 1～2021. 9. 30 (2年)	高等学校
在校生保護者代表	2019. 10. 1～2021. 9. 30 (2年)	保護者
三穂電機株式会社	2019. 10. 1～2021. 9. 30 (2年)	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		

公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 URL : https://www.keisen-housou.com
第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.keisen-housou.com

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	経専音楽放送芸術専門学校
設置者名	学校法人経専学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		50人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	24人	26人	
	第Ⅱ区分	11人	一人	
	第Ⅲ区分	15人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				51人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	1人	0人
計	人	1人	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。